

## 日吉台地下壕保存の会

## 会報

## 第39号

発行 日吉台地下壕保存の会  
編集 事務局223 横浜市港北区下田町3-15-27  
寺田方 TEL.045-562-1282(年会費) 一口千円で、一口以上  
郵便振込口座番号00250-2-74921  
(加入者名)日吉台地下壕保存の会

## 事業名・要望の要旨

## 回答

## 遺跡の整備と保存 (教育委員会事務局)

地域の歴史と文化を生かした街づくりのために、埋もれた地域の遺跡・旧跡・名所などを掘り起こし、整備・保存してほしい。

また、地域の歴史がわかる散策コースをつくり、道路・看板などを整備して、高齢者・障害者の方も安全に散策できるよう工夫してほしい。

地域の遺跡・旧跡等の保存や歴史散策コースの整備について、今後、検討していきます。

横浜市港北区民会議の要望にたいする回答を、同会議に参加している寺田事務局長から、みせていただきました。

日吉台地下壕の整備保存  
(教育委員会事務局)

連合艦隊司令部跡の日吉台地下壕を史跡として保存整備し、見学コース設定や戦争の実像を伝える品々の保存・展示をお願いしたい。

近代化遺産の基本的な分布調査を検討している段階で、価値判断がこれらの課題であるため、取り扱いについて関係機関と協議していきます。

## 郷土資料館の建設 (教育委員会事務局)

郷土の歴史がわかる郷土資料館を身近な所に建設してほしい。

「特色あるテーマ資料館」の全体構想を策定する段階で、検討していきます。

## 目次

## ページ

横浜市港北区民会議の  
要望にたいする回答

1

## 連載日吉台地下壕

当時の関係者の思い出話 16 6 ~ 7

第四回横浜・川崎平和のため  
の戦争展開催にあたって

2 ~ 3

7 ~ 8

日吉台地下壕からの

## 幹事会報告

メッセージを伝えるために

4

## お知らせ

8



# 日吉台地下壕からのメッセージを伝えるために

幹事 喜田 美登里

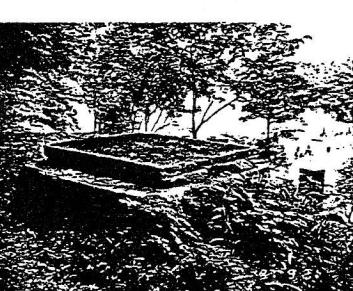
「平和のための戦争展」は今年九月の開催で四回目になる。展示を充実したものにするために、先日の幹事会では、手持ちのパネル（ほとんどが拡大コピーを厚紙で裏打ちしたもの）を整備すること、プロジェクト・チームを組んで保存の会のオリジナル・ビデオを夏に作製する事等が話し合われた。

三回までの「戦争展」で頂いた感想の中には、「地下壕等の事実を知る事ができ、良い展示であった」と言った多くの文に混じって、必ず、「資料がわかりにくい、展示が雑である」等の意見が見られる。保存の会の手持ちの資料や写真の山を前にどう展示

するか果然としていた第一回の事を思えば、四回目を迎える現在、小池汪氏製作の写真パネルがあり、その他の写真も額に整理されて、様々なイベントに貸し出しできるよう

にもなり、「日吉台地下壕」の保存を訴える展示品は確実に整えられてきている。ただ、手作りの資料パネルが何回か使う間に痛んできた事と、わざりやすい構成と、順に見て回る展示会にふさわしい文字と適切な量の資料パネルが必要と思える事から、少しずつでも手直ししていきたいと思う。模型の作り直しもこれからの課題として、先程の幹事会で話し合われた。

り組み次第でもつと沢山のメッセージを戦争展参加者に語つて行くと思う。こんなふうに言うのは私自身が、「戦争を知らない」アダルト・チルドレンで、「歴史健忘症」と言うか、基本的知識に欠けるパネルがあり、その他の写真も額に整理されて、様々なイベントに貸し出しできるよう為か戦争を生きた世代と比べて、「戦争」をイメージする力が弱いからだ。私が軍や戦争の実際を理解できたなあと感じたのは、「登戸研究所」の陸軍研究所の組織図を前にした時で、断片的な知識が納まる所に納つたようだつた。研究員の方々の協力を願いします。常に人手が不足しています。資料・パネル作成等、手伝つて下さる方歓迎です。



（撮影：喜田美登里）

「平和のための戦争展」のテーマは、「私の街から戦争が見える」だが、毎年かかげてこのフレーズから、実行委

メンバーのメッセージを読み取つて頂きたい。小池汪さんは写真パネルの冒頭に「旗艦ハ地下壕ゾ」とかかげた。壕から発信される無限の言葉を少しでも受け止めもらえる展示にしたいものだと思う。さて、今年は日吉台地下壕からどんなメッセージが届くでしょうか？ 是非おでかけください。

戦争展の準備については会員の方々の協力を願いします。常に人手が不足しています。資料・パネル作成等、手伝つて下さる方歓迎です。

- (9) 話には聞いていたが、とても広く大きい事がわかり、当時は電気や排水など快適な生活だったのか?長期的な考え方で作られたとしたら、怖い気がした(40代の主婦)。
- (10) 疎開の経験をした主人との会話から子供達にも話を聞かせておきたい戦時下の状況だと改めて思った(主婦)。
- (11) 日吉電話局が特別な軍の電話局だと聞いていたが、日吉にこんなに重要な働きをする壕が作られて居たとは驚きだった(主婦)。
- (12) 思ったよりずっと整備されしっかりとしたものだったので驚いた。私は戦争を体験していないし、地下壕を見ても実際のことは想像だけでは良く判らない。是非教育施設として整備保存をして頂き若い世代の人達にも多く見てもらいたいと思った。「人を殺す事を計画するために作られたものだ」と言うことを忘れないでいたいと思った。とても良い見学会であった。感謝!(大学生・女子)
- (1) 各壕について、プレート、簡単な内容などの表示が出来れば一層よいものになるのではないかと思った。大変なことだがその様に希望したい(60代、無職)。
- (2) 行政で保存の措置が出来ることを望みたい(60代・無職)。
- (3) 慶應大学で保存をすべきだと思う(女子・浪人生)。
- (4) 地区、大学、防衛庁、各関係官庁などと協力して保存をしてもらいたい。歴史を残して欲しいから(50代・主婦)。
- (5) なるべく今の形に手を加える事のないように。同時に、放置をしていれば、どんどんと壊れて行くと思うので、きちんと養生をすべき。難しいだろうがやって欲しい(20代・会社員)。
- (6) 幹事、ご苦労様。無為に廃棄をすべきではないと思う。国の史跡に指定されるとよい(70代・無職)。
- (7) 各地の壕と有機的に関連づけて保存をして欲しい(40代・教員)。
- (8) 入り口を公共の場所として早く開設する事、民家から入るのはよくない(会社員の男子)。
- (9) 資料館として戦争中の地下壕の様子が言葉だけでなく見て知りたい。例えば、ここにはベッドがあったと言うところにはこの様なベッドが置いてあったり、当時の生活が分かるようにしたらいかが?それに、この地下壕を掘った労働者の事などの説明も(40代の女性)。

(記録・文責・上村)

## 『日吉台・地下壕』見学会 アンケートの結果報告

下田町文親会のみなさんの地下壕見学の感想です。

紙面の都合で抜粋させていただきました。

見学日：平成8年3月20日（祭）・午後1時～4時

案内者と説明者：寺田貞治先生（慶應高校の教師）

見学日：平成8年5月26日（日）・午後1時～4時。

講 師：谷藤基夫先生（寺田先生の代理として）。

- (1) 戦後51年、それ以前に造られた壕がよく現在まで残っていたものだと思う一方、機械類もない時代に構築に要した労力は大変だと思った。構築に動員された方々のご労苦を思い犠牲になった方々のご冥福をお祈りした。（私は、陸軍で軍隊生活1年、シベリア抑留4年を、経験した。2度とこの様な戦争のないよう、平和の史跡として後世に語り伝えて欲しい）…（60代・無職）
- (2) 真っ暗闇で怖かったが歴史の事が判って良かった。紙の上の歴史の勉強だけでなく、自分の目で歴史の跡を確かめる事が非常に大切な事だと理解した（10代・女子浪人学生）。
- (3) 非常にスケールが大きく戦中、戦後と思いがひしひしと感じられ、感銘を受けた（70代・無職）。
- (4) こういう機会がないと地元の事とは言えなかなかきちんと知ることができないのが残念だ（20代・会社員）。
- (5) こんなところにいてよく指揮が出来たと思った。陸軍の地下壕についても知りたい（40代・教員）。
- (6) 大変に厳しい戦争をしたのだと実感した。日本も最後まで戦う意欲を示した事は我々国民の誇りだ（60代・自営業）。
- (7) 当時のものが何もないでつまらなかった（会社員の男子）。
- (8) 身近にこれ程の建物がありながら、今の平和な世の中でどれ程の人達が実際の事柄を知らずに生活をしていることを思うと、様々な意味で犠牲になられた方々に申し訳なく思う（50代の主婦）。

連載

日吉台地下壕

当時の関係者の

思い出話 16

日吉の日々 8

元海軍航空本部・中尉の本田氏の話を伺います。

本田直左衛門・親英氏の話

(ききて・寺田 貞治)

上智大学商学部経済学科三年在学中、学徒動員のため卒業が早まり、昭和一八年一二月一〇日に二七名が海軍の一四期生として入隊した。一四期生は三三〇〇人いたが、四一人戦死した。二名は沖縄で戦死した。一四五人が比島に行つたが、生還した人は四五六人しか確認されていない。

白菊特攻隊の西村晃氏(俳優)は一四期生である。上智大や立教大はミッションスクール

なので、卒業生の中には靖国神社におじぎをしない人がいて、軍から睨まれていた。

昭和一九年一〇月二〇日に航空本部に転勤、海軍省に入つた。ここでは機関学校出身者が多かつた。一二月二五日少尉に昇進した。

私は、航空本部第一部(補給部)に属し、飛行機の部品の調達・配分の仕事をしていた。発動機とプロペラを担当した。軍令部の作戦計画に沿つて工場に部品を発注し、各航空隊に分ける役割をしていった。工場は荻窪や大宮にあつた。当時、エンジンは回ればよしとした。航空本部で使つていた道具はアメリカ製であつた。

補給部品や飛行機は、空輸専門の一〇〇一部隊・通称ハト部隊に引渡した。しまいに

れるので、直接航空隊が航空廠に取りに来た。戦争末期になると、首なし(発動機なし)の飛行機ばかりが出来た。最後にはベニヤ板で作られた飛

行機もあつた。航空本部で仕事をしていると前線の様子がよくわかつた。

昭和二〇年五月二九日、海軍省が空襲で焼け、航空本部も一部焼けたので、日吉に来た。航空本部の第一部(補給部)の五〇人位が来た。将校二〇人、下士官一人、理事生三〇人(女性も含む)であつた。タイピストや補助員のいた。理事生は事務をやつていた。

航空本部は役所なので書類が多くた。航空本部の一部の人は現高校校舎に入った。南側の中庭にガルバニーム(士官・尉官の部屋)があつた。日吉の東横線の線路沿いの墓地近くに二

軒ほど民家を借り、大尉以下が入つてた。女性の理事生は、近くの住宅を借りて住んでいた。

私は1Bの東側の地下壕に

入り、毎日午前八時より午後七時まで仕事をしていた。

天井も床も全部コンクリートで出来ていたが、通路は床が

地肌のままであつた。電燈は笠がついていたが、裸電球であつた。偉い人は、衝立て分けられていたが、それ以外は向い合せで机を並べて仕事をしていた。スチールロッカーに書類などを入れていた。空気の流通は良かつたが、湿気は多く、机のベニヤ板がはがれてきた。地下壕の出入口は高校のバスケットコート附近にあつた。地下壕では通信状況が悪くなつた。

日吉に来てからは決号作戦(本土決戦)の配備がとられ、

たいして仕事はなく、地方にも余り行くことはなかつたが、私と阿部氏は忙しかつた。その頃、三保、神町、松江などに、海軍だけで二〇〇〇機位飛行機が残つていたが、石油は十分でなかつた。瀬谷の地下壕には航空部品が一杯あつたが、必要な部品がなかつた。日吉ではマントを着て歩いていた。短剣は邪魔になつて持たないでいた人もいた。短剣を武士の魂だと思っていた人は誰もいなかつた。日吉では爆撃にあつたことはなかつた。既に殆ど焼かれた後に移つてきたからである。

ケ浦の第一航空廠とは日頃連絡があり、食糧を貰つた。にわとりのスキヤキをして食べたこともあつた。夜は遅くまで食事をして酒を飲んでいた。日本軍にはやたらに酒があつた。軍艦にも必ず積んでいた。米軍は軍艦には酒を積まなかつたので、港に着くと良く飲むのである。ザリガニを取つてきて、炭火で串焼にして酒のつまみにした。パンは日吉に来てからは食べたことはなかつた。腹が減つたという記憶はない。海軍省に転任した頃から、日本は勝てるとは思わなかつた。

日吉ではいろいろなことがあつた。鈴木貫太郎の息子（中佐）がいて、航空本部の木津川という人の敬礼の仕方が悪いといって、軍刀を抜こうとしたので皆で止めた。また、私が予科練の分隊士だった昭和一九年七月八月頃、

ある予備学生が「俺は指揮官にならない。こんな馬鹿な戦争をやつて必ず日本は負ける」といい、殴られても徹底的に上官に反抗するので、「彼の面倒をみる」と上官にいわれたことがあつた。日吉に来た時、東京警備隊員として日吉にきていた一等水兵の彼に声を掛けられ、非常に驚いた。

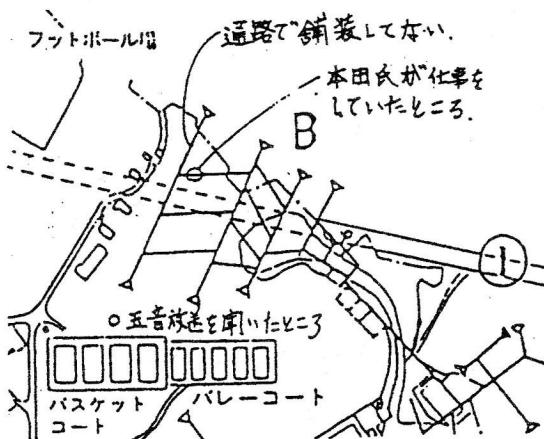
幹事△云報出口第二回  
六月二四日一九時  
フードギヤラリー  
報告  
一、五月一一日川崎市職員ウ  
オッチング・グループによる  
見学会二六名參加  
二、同一七日「96平和のため  
の戦争展inよこはま」実行委  
員会參加  
三、同二六日「川崎・横浜平  
和のための戦争展96」第二回

五、同二六日下田町自治会文  
親会による見学会二五名参加  
講師谷藤先生

六、同二八日「96平和のための  
の戦争展inよこはま」反省会

七、六月四日会報三八号発行、  
発送

八、同五日「96平和のための



幹事△云報生口第二回  
六月二四日一九時  
フードギャラリー  
報告

## 戦争展かながわ」第二回実行

## 委員会

九、同一日「同」第三回実行委員会

一〇、同二四日幹事会開催

一一、同三〇日文化財関係者と今後のことについて話し合う

寺田事務局長参加予定

一二、同日「横浜・川崎平和のための戦争展」第三回実行

委員会予定

一三、七月二六日「96平和のための戦争展かながわ」第四

回実行委員会予定

一四、七月二十五～二八日「同」

開催予定

一五、同二七～二八日第七回

朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会予定

## お知らせ

第四回横浜・川崎平和のための戦争展開催にあたり、プレイベントとして下記の見学会を開催します。ふるってご参加ください。

(1) 登戸研究所 9月7日(土) 1時30分

小田急生田駅集合

(2) 蟹ヶ谷通信隊地下壕 8月31日(土) 10時

蟹ヶ谷バス停集合(東横線綱島駅～南武線武蔵新城駅)

(3) 日吉台地下壕 8月31日(土) 1時

東横線日吉駅集合

なお、資料代500円をいただきます。

(2)(3)の見学希望の方は往復葉書で寺田貞治

(〒223 横浜市港北区下田町3～15～27)までお申込下さい。

地下壕は真っ暗の上、水たまりがありますので、長靴と懐中電燈をご用意下さい。

## 96平和のための戦争展かながわ

成功のために —— みなさんへのお願い

◆とき 1996年7月25日(木)～28日(日)

\*搬入日 7月25日(木)午前中

\*搬出日 7月28日(日)夜(終了後)

◆時間 7月25日(木)午後2時～午後7時

7月26日(金)午前10時～午後7時

7月27日(土)午前10時～午後7時

7月28日(日)午前10時～午後5時

◆ところ 鎌倉芸術館ギャラリー(大船駅下車)

◆実行委員長 弓削 達(前フェリス女学院大学学長)

◆後援 神奈川県／県教育委員会／鎌倉市／神奈川・読売・朝日・毎日・東京・